

心の輪12R



『裏庭でのできごと』という資料を通して、
「誠実な行動と責任」について考えました！



もし、こんな感じになったら、自分がちゃんと二人が悪いことをしようとしていることを知りながら止めなかったことに対して責任を取り、しっかり先生にも謝ると思った。そして、まず、先輩たちがボールを取ることに對して、それを止めて、こんな裏庭でサッカーをやって窓が割れるなんてことをなくそうと思った。自分が、先輩のことも二人のことも大輔のことも止めていれなくなりました。

自分がしてしまったことは、正直に話して、一人だけに責任を任せない。自分は悪くなくても、一人だけが怒られている時は、自分もその場所にいたら、自分も怒られるし、悪いことをしている人がいたら、ちゃんと注意しようと思った。

こういう場合になってしまったら自分も悪いから、自分も先生に謝りに行くし、大輔みたいに「別にいいだろう」と思わず、謝りに行かないといけないと思った。

自分のやったことには嘘をつかずに素直に言うようにする。もし、友達と何かやっていてガラスが割れて、私だけバシらずにその友達だけ怒られてラッキーと思わず、「私もやりました」と正直に告げるのが良いと思う。

やっぱり、誤魔化したり、知らない振りをしたりしたら、後から辛くなるんだなと思いました。私も、こんな風にならないように頑張りたいと思います。私なら自分から言いに行きます！

自分のためになる判断、自分を良い方に持って行く判断、後悔しないような判断をしようと思った。

だれ誰かに任せてしまえばラクチンだ。
逃げることもできるし、知らないふりができるから。
——でも

そんな自分はかっこいいだろうか？
そんな自分のままでいいだろうか？

私がもし健二だったら、そのまま先生に言わずに黙っておくけど、健二は先生に自分から言いに行っていてすごいと思った。また、これから私は、他の人がいない所でも悪いことをしてしまったら、正直に話したいと思った。よく考えてから行動したいと思った。

人のせいにせず、自分がしてしまったことを認めていきたいです。「良いことは良い、悪いことは悪い」とけじめをつけて、良いことなのか悪いことなのかを判断していきたいです。

「この人が悪い」とかをやめて、「この人が」と言わず、その中に自分が入っているとすれば、自分から僕も悪かったと言えるようになりたいです。

僕もこんな経験があって、その時は黙って誤魔化してしまったけど、この話を聞いて、次からは正直に言いたいです。その前に、そうなるようなことをしたくないと思いました。

これから私は、『後悔』すると思ったからではなく、『自分が悪いことをしたから自分で行動する』と、『後悔』という言葉で誤魔化せずに、自分自身で次につなげていく、つなげていきたいと感じた。



文部科学省資料
『私たちの道徳』P.23 より引用